

町長就任のご挨拶

若桜町長 上川 元張



このたび、町民の皆様のご支援をいただき、二期目の町政を担わせていただくこととなりました。就任にあたり、まちづくりに向けた所信を申し述べます。

これまで一期4年間、人口減少に何とか歯止めを掛けたいと取り組んできました。特に、産業を振興し、地域経済を活性化させ、雇用の場を確保することが大切と考え、例えば、お金の稼げる観光産業を目指して、滞在型観光への取組を強化しました。また、地産地消による地域経済循環の仕組みを構築しようと、デジタル地域通貨の導入を進めました。一方で、町民の暮らしを守るため、買い物環境の確保、地域医療の維持、公共交通の利便性向上などにも力を注ぎ、一定の成果が得られました。

しかし、残念ながら人口減少は止まりません。まだまだ道半ばですが、施策の方向は決して

間違っていないと思います。明るい兆しも見られます。地域食堂がこの1年余りの間に3つも誕生するなど、コロナ禍を経てコミュニティが活性化しました。また、宿内で起業が増えてきました。町民の力、民間の力でまちを盛り上げる動きは、未来への希望です。

二期目は、こうした一期目の成果を活かしつつ、より進化させていきます。キャッチフレーズは「足腰の強い地域社会」。これは社会の変化に対する適応力や回復力を備えた、持続的に機能し続ける地域社会という意味です。決して土俵を割らない、しなやかな粘り腰で人口減少にしっかりと適応できる地域社会を目指します。

そのために、特に次の3点に力を入れます。

①町民のつながるチカラを強め、応援団となる関係人口を増やします

町民のつながるチカラは、防災、防犯、健康づくり、地域経済などまちの様々な機能を高めます。認知症対策や障がい者福祉など地域福祉活動の土台ともなります。町民のコミュニケーションの場づくりを進め、強固なネットワークを形成します。これに加えて、外のチカラ、つまり、町出身者、観光リピーター、ふるさと納税者、まちづくりにノウハウを持つ民間企業などの関係人口を増やし、ともにまちづくりを進めます。

②地域の産業を振興し、経済を活性化し、雇用を確保します

林業・林産業では、町産材に付加価値を付けて販売し、山元にもお金が残る仕組みを地元の林業事業体とともに検討します。山林境界の明確化や路網整備など素材生産量を増やすための環境整備も引き続き進めます。

農業については、昨年、国の交付金の受け皿となる集落組織を広域化し、集落を基盤に農業を営み、農地を維持管理する体制を整備しました。これを土台に、米やエゴマに次ぐ特産品として、発信力のあるそばなどを伸ばし、農家所得の向上を目指します。

観光については、若桜宿内で古民家を活用した分散型ホテルの取組を進めています。これに合わせて体験メニューの造成やガイドの育成、土産物の充実などに取り組み、氷ノ山のグリーンシーズン対策とともに、滞在型観光をより深化させます。あわせて、観光資源の目玉でもある若桜鉄道を活用した誘客を進め、台湾をはじめインバウンドも増やします。

③町民の暮らしをよりきめ細かくサポートします

人口が減少する中で、よりきめ細かく町民に寄り添った生活支援を行います。集落支援員を増員し、マンパワーとデジタルやAIの力を組み合わせ、買い物環境、地域医療、公共交通などの面で町民の利便性を高めま

す。こうした取組の先に目指す社会は、町民が活力に満ち、外からも多くの人々が往来するにぎやかなまちです。実現のために、町民の皆様や町内の民間団体・事業所と連携し、オール若桜で取り組んでいきます。にぎやかなまちづくりに、ともにチャレンジしましょう！